答えのない社会で生き抜くために「問い」を持つ

啓林館　たんきゅう塾NEO

〝たんきゅう〟の名の通り、一つのテーマについて深堀りしていく研究室のような塾だ。「好き」「やってみたい」と興味を持ち、抱いた「問い」にとことん向き合い、仲間との関わりで新たな気付きを得て、そして出した「最適解」を整理し発表する。講座を担当しているのは啓林館の教科書編集に関わっている大学の先生たちだ。

「特に小学生のうちは、自分の手で何かを生み出すというような〝実体験〟が大切だと私は考えています。講座を通して、文科省が目標として掲げている〝学びに向かう力〟が育ちます」と、担当の藤本勇二先生(低学年講座担当)は語る。

私が感心したのは、さまざまな大人が関わっている点だ。大学の先生や教師を目指す学生メンターが子どもの取り組みを見守り、自分で答えを見つけられるよう適宜アドバイスし、「すごいね！」と褒める。また高学年の講座では子どもたちの深い学びを実現するために専門の企業とも連携しているという。この環境があるからこそ、子どもが主体的に取り組み、自信をつけているのだろう。

300個のコップをいかに高く積み上げられるか？と試行錯誤する様子